

金沢大学 地域連携推進センター

自己点検・評価 報告書

平成28年3月

自己点検評価の方針	3
1 理念と目標	
1-1 設置の経緯	3
1-2 センターのミッション	3
A) 生涯学習部門（生涯学習の振興に向けた連携事業）	
B) 地域連携部門（地域の活性化・地域課題の解決に向けた連携事業）	
C) センターが協力・協働する連携事業	
1-3 センターの人員構成	5
1-4 センターの運営	6
1-5 センター施設の概要	7
1-6 関連施設の概要	7
2 生涯学習の振興に向けた連携事業	
2-1 学習機会の提供事業	9
A) 公開講座	
B) ミニ講演	
C) 金沢大学市町共催講座	
D) 公開「e」講座【補助金（文部科学省（知）の拠点整備事業）】	
E) 市民のためのセミナー	
2-2 指導者養成事業	16
A) 金沢大学社会教育主事講習【受託事業（文部科学省 社会教育主事講習）】	
B) 社会教育主事等フォローアップ研修	
C) 学校図書館司書教諭講習【受託事業（文部科学省 学校図書館司書教諭講習）】	
2-3 自治体等との連携による事業	20
A) 北陸4大学連携まちなかセミナー(石川会場)	
B) 市町生涯学習・社会教育担当者等研修	
C) 生涯学習振興に係るフォーラム等	
D) 教育事務所管内別生涯学習研究会	
E) 中央区との連携による講座	
F) 北國新聞社との連携による講座	
G) 読売新聞社との連携による講座	
3 地域の活性化・地域課題の解決に向けた連携事業	
3-1 学生活動への支援事業	31
A) 学生チャレンジ事業【寄附金（株式会社アプリス）等】	
B) 社会貢献のための学生ネットワークの構築	
C) IPP0 WORKSHOP	
D) Zero-Journey	
E) 金沢大学放送局（web-KURS）	
3-2 地域活性化・地域課題の解決に向けた事業	37
A) タウンミーティング	
B) 域学連携協定に基づく事業	
C) 能登の祭り支援プロジェクト【受託事業（能登キャンパス構想推進協議会）等】	
D) まちなか活性化プロジェクト	
E) 地域交流プロジェクト【受託事業（大学コンソーシアム石川）】	

3-3	地域資源を活用した事業	46
A)	「能登里山里海マイスター」育成プログラム	
B)	能登里山里海研究部門【寄附金（珠洲市）】	
C)	里山里海再生学の構築【文部科学省 運営費交付金 特別経費】	
D)	角間里山農園プロジェクト【農林水産省「農」のある暮らしづくり】	
E)	角間里山ゼミ【寄附金（富士フィルムグリーンファンド）】	
4	センターが協力・協働する連携事業	49
4-1	能登オペレーティング・ユニット事業	
4-2	角間里山本部事業	
4-3	地（知）の拠点整備事業	
4-4	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業	
4-5	地域連携シンポジウム	
5	センター提供科目（授業）	53
5-1	共通教育科目「地域連携学入門」	
6	広報活動	55
6-1	ホームページによる発信	
6-2	キャラクターの活用	
7	外部資金受入状況（参考資料）	56
8	外部委員の評価のコメント	58

自己点検評価の方針

金沢大学地域連携推進センターは、本学の第2期中期計画に基づいて自己点検評価を行うこととし、平成20年4月から平成23年3月までの3か年を対象として第1回目の自己点検評価を平成23年3月に実施、平成23年4月から平成25年3月までの2か年を対象として第2回目の自己点検評価を平成25年3月に実施している。

今回、前回の自己点検評価後の3年間（平成25年4月から平成28年3月）を対象に、前回の評価を踏まえ、地域連携推進センターの機能をより強化し、ルーティン化されることにとらわれない、新しい地域連携の新機軸を打ち出せたか、また継続性の高い事業についても、より改善を図りながら、新しい観点を取り入れ事業を推進できたかを、点検し評価するものである。

自己点検評価の実施にあたっては、地域連携推進センター長を委員長とする自己点検評価委員会を設置することにした。実施方法は、自己点検評価委員会のメンバーである専任教員、事務職員がそれぞれ管掌する業務について過去3年間の業務実績を整理し、自己評価を行うというスタイルで統一した。業務実績の概要は、部外者にもできるだけ理解しやすいように図表を活用するよう努めた。

自己点検評価報告書の完成後には、地域連携に関わる学識経験者に外部評価を求め、報告書とともにHPで公開することとし、今後の地域連携推進センターのあり方について広く意見聴取を行う予定である。

1 理念と目標

1-1 設置の経緯

金沢大学は、昭和51年5月に学内共同教育研究施設として「大学教育開放センター」を設置した。大学の教育機能を広く市民に学習機会の提供を通じて開放するとともに、大学教育に係る研究の推進を目的としたものであった。

平成14年5月、地域社会からの大学に対する社会貢献の期待に応えんがため、「地域貢献推進室」が設置された。さらに平成16年4月、国立大学が法人化されたことを機に、推進室は「社会貢献室」へと改称した。平成20年4月、金沢大学の生涯学習推進の拠点である「大学教育開放センター」と地域連携の窓口としての「社会貢献室」とを統合して、現在の「金沢大学地域連携推進センター」の設置となった。（図1 設置の経緯を参照）

1-2 センターのミッション

金沢大学地域連携推進センターの使命は、金沢大学の教員、職員、学生が大学内で培った研究と教育の成果を広く地域社会に還元し、最先端の研究成果を広く一般社会に伝えることにある。しかし、金沢大学で取り組んでいる最先端の研究成果を社会に還元する方法は、地域連携推進センターを通じたものだけではない。新しい技術を開発してそれを新商品に生かす方法もあるし、専門書を執筆して多くの読者に読んでもらうという方法もある。

地域連携推進センターは、「地域連携のワンストップ窓口」を標榜し、金沢大学と地域との連携窓口となることを目標としている。地域社会が大学の知的資源を求めて金沢大学に立ち寄ろうとする時、あるいは大学が地域で研究・教育活動を展開したいと考えている時に、気楽に立ち寄れる存在となることがわれわれの目指す姿である。

A) 生涯学習部門（生涯学習の振興に向けた連携事業）

生涯学習部門では、金沢大学の教員による研究の成果を公開講座やミニ講座などを通じて地域社会にわかりやすい形で還元することに重点を置き、生涯学習の振興に向けた連携事業を実施している。とくに、高等教育機関である大学でしかできない生涯教育を目指している。さらに、地域の人々が持っている生涯学習への意欲をサポートしている社会教育主事や学校図書館の利活用推進を担う司書教諭の資質向上のための事業を遂行することも、生涯学習部門では大きな使命となっている。

B) 地域連携部門（地域の活性化・地域課題の解決に向けた連携事業）

地域連携部門では、金沢大学の研究・教育の成果を地域社会に還元するためのパイプ役を果たすことに重点を置き、地域の活性化・地域課題の解決に向けた連携事業を実施している。地域からは、教員による高度な研究の成果が地域社会に還元され、若い学生が地域の現場で活動することが求められている。地域連携部門は、地域社会から寄せられる大学への期待を高等教育機関が取り組むべき課題として整合させ、研究と教育との整合性を図りながら推進することが大きな使命となっている。

（図2 地域連携推進センター組織図を参照）

C) センターが協力・協働する連携事業

地域連携のワンストップ窓口として、金沢大学が全学で取り組む様々な地域連携事業への支援を行っている。

1976. 5	2002. 5	2004. 4	2008. 4	現在
	地域貢献推進室設置	社会貢献室に名称変更	地域連携推進センターに組織統合	
大学教育開放センター設置				
●国立大学で2番目 （学内共同教育研究施設としては全国初）	●地域貢献コーディネーター配置 （地域貢献では全国初）			

図1 設置の経緯

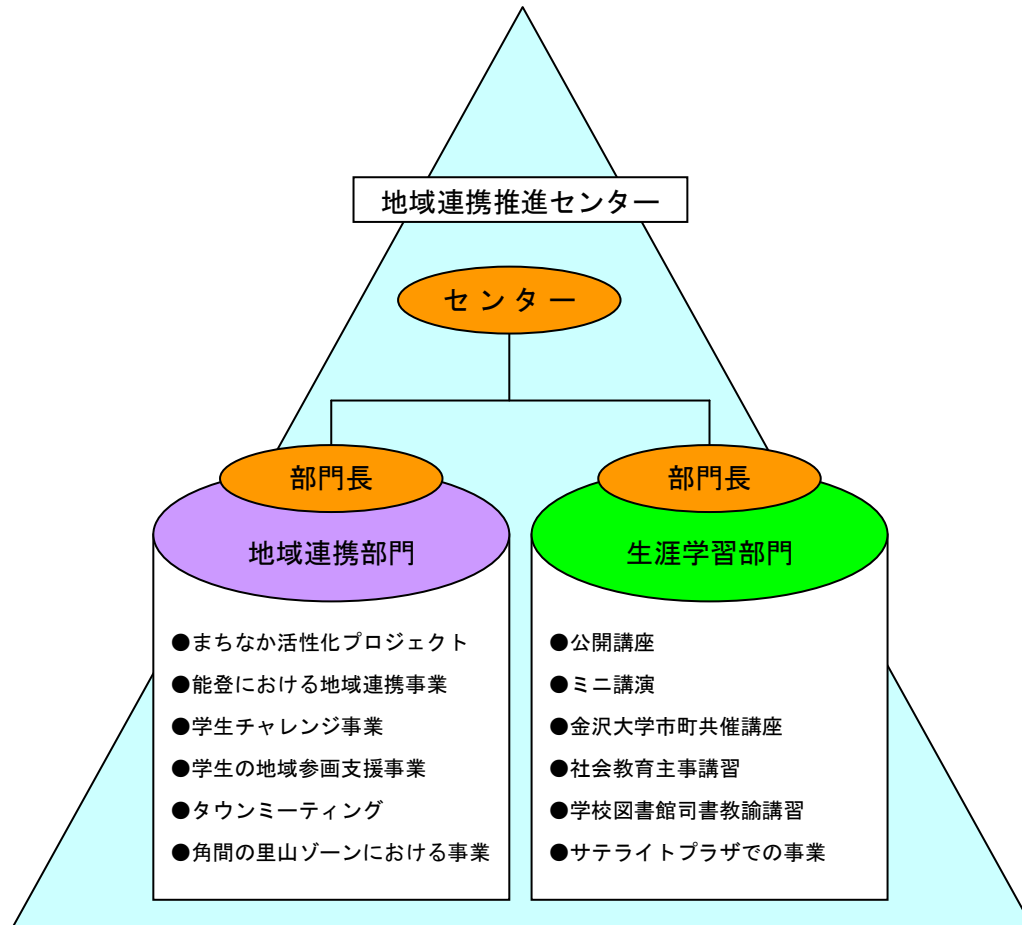


図2 地域連携推進センター組織図

1-3 センターの人員構成

地域連携推進センターは、2部門（生涯学習部門、地域連携部門）から構成される。

現在の教員組織は、センター長1名（併任）、専任教授1名、専任准教授1名、センター教員10名（併任）の体制となっている。

事務組織は、平成26年度の改組に際し、総務部総務課から総務部地域連携推進室に移行し、室長1名、副室長1名、係長2名、事務補佐員5名（サテライト・プラザ交代勤務等）の体制となった。

また、外務資金等（プロジェクト）雇用として、12名が配置されている。

教員および事務組織

H28.3.1 現在

	センター長	教授 (生涯学習部門)	准教授 (地域連携部門)	センター教員	事務職員 (室長)	事務職員 (副室長)	事務職員 (係長)	事務職員 (係員)	教務補佐員	技術補佐員	事務補佐員
定員	—	1	1	—	1	1	2	—	—	—	—
現員	(1)	1	1	(10)	1	—	2	1	2	1	5

() は併任

外部資金等（プロジェクト）雇用

H28.3.1 現在

	特任教授	特任准教授	特任助教	研究員	教務補佐員	技術補佐員	事務補佐員
定員	—	—	—	—	—	—	—
現員	2	1	1	3	1	0	4

センター職員一覧

H28.3.1 現在

名前	所属	職名
地域連携推進センター教員		
横山 壽一 (併任)	人間社会研究域経済学経営学系	教授
浅野 秀重	地域連携推進センター	教授
蜂屋 大八	地域連携推進センター	准教授
神谷 浩夫 (併任)	人間社会研究域人間科学系	教授
佐川 哲也 (併任)	人間社会研究域人間科学系	教授
吉田 国光 (併任)	人間社会研究域学校教育系	准教授
佐無田 光 (併任)	人間社会研究域経済学経営学系	教授
綿引 伴子 (併任)	人間社会研究域学校教育系	教授
浅井 暁子 (併任)	人間社会研究域学校教育系	教授
高山 純一 (併任)	理工研究域環境デザイン学系	教授
稲垣 美智子 (併任)	医薬保健研究域保健学系	教授
長尾 誠也 (併任)	環日本海域環境研究センター	教授
八重澤 美知子 (併任)	留学生センター	教授
中村 浩二	地域連携推進センター	特任教授
宇野 文夫	地域連携推進センター	特任教授
(地域連携推進センター 教育スタッフ)		
國司田 晴美	地域連携推進センター	教務補佐員
川島 章子	地域連携推進センター	教務補佐員

(生涯学習スタッフ)		
葛城 地都子	地域連携推進センター	事務補佐員
(サテライトプラザスタッフ)		
新田 優子	地域連携推進センター	事務補佐員
木村 美智子	地域連携推進センター	事務補佐員
(能登里山里海研究部門 教員スタッフ)		
小路 晋作	地域連携推進センター	特任准教授
伊藤 浩二	地域連携推進センター	特任助教
(能登里山里海マイスタースタッフ)		
シュクル ラフマン	地域連携推進センター	教務補佐員
澤野 未佳	地域連携推進センター	研究員
(イフガオ里山マイスター 管理スタッフ)		
割出 智美	地域連携推進センター	事務補佐員
(COC+ 運営スタッフ)		
掛野 由香	地域連携推進センター	研究員
岡部 聖	地域連携推進センター	研究員
(COC+ 管理スタッフ)		
梅下 奈緒	地域連携推進センター	事務補佐員
(COC 管理スタッフ)		
高田 美智代	地域連携推進センター	事務補佐員
石黒 佳恵	地域連携推進センター	事務補佐員
(角間の里 管理スタッフ)		
明翫 充	総務部地域連携推進室業務管理係	事務補佐員
細木 行美	総務部地域連携推進室業務管理係	事務補佐員
(事務局 総務部地域連携推進室)		
竹田 裕一郎	総務部地域連携推進室	室長
出村 文一	総務部地域連携推進室業務管理係	係長
小山 久美子	総務部地域連携推進室連携事業推進係	係長
堺 淳	総務部地域連携推進室連携事業推進係	一般職員

1-4 センターの運営

センターは、金沢大学地域連携推進センター規程に基づき運営されている。

毎週火曜日には、センター長、専任教員、部門長によるランチ・ミーティングを開催し、事業の企画提案及び報告が行われる。

センター教員会議は、センター長、専任教員、部門長、センター教員により、適宜、開催し、各事業の企画立案、方向性について議論し、各部局との連携協力を図っている。

また人事、予算等センターの重要な意思決定に際しては、センター教員会議委員、基幹会議からの選出された委員により、センター会議を開催し、センターの運営について審議される。

1-5 センター施設の概要

「地域連携のワンストップ窓口」としてのミッションを円滑に推進するため、学生や地域住民が利用しやすい環境整備を進めた。平成 26 年度には、講義室の机・椅子を新調するとともに、ミーティング・スペースの新設に努めた。平成 27 年度には、使用実績の少なかった給湯室を廃止し、物置として有効活用するなど、使用者がセンターを気持ちよく利用できる環境づくりに配慮した。

総面積：530 m²（廊下・階段等含む）

センター長室	1 室	講義室	1 室
教員室	2 室	ワークルーム	1 室
事務室	1 室	コーディネーター室	1 室
ミーティング・スペース	1 箇所		

1-6 関連施設の概要

平成 12 年 9 月、教育研究、地域交流、社会人に対する教育の提供、大学情報の収集・発信等に資することを目的に、石川県立社会教育センター内に金沢大学サテライト・プラザ（学びと情報の発信拠点）が開設された。平成 13 年 4 月からは、金沢市西町教育研修館に場所を移し、現在に至っている。

公開講座、ミニ講演、研究会等の開催、大学情報の発信のほか、金沢大学のサテライトキャンパスとしてゼミ・発表会等に広く活用されている。

また、COC 事業により、平成 26 年度には新たに珠洲市と小松市にサテライトを設置し、新たな「学びの場」として遠隔地教育システムにより公開講座、ミニ講演等を受講できる体制を整えた。



【地域連携推進センター 施設外観】



【入口ロビーの LED 照明】



【地域連携推進センター長室】



【講義室】



【サテライト・プラザ内部】



【珠洲サテライト】



【小松サテライト】

2 生涯学習の振興に向けた連携事業

2-1 学習機会の提供事業

A) 公開講座

・趣旨

本学の教育・研究の成果を広く地域社会に公開し、地域住民の学習ニーズに応えるとともに地域文化の向上、地域の活性化に資することを目的として実施する。

・実施状況

平成 25 年度	19 講座開設	受講者	426 人
平成 26 年度	25 講座開設 (うち, 6 講座を遠隔地配信)	受講者	サテライト・プラザ 592 人 珠洲サテライト 31 人 小松サテライト 33 人
平成 27 年度	30 講座開設 (うち, 13 講座を遠隔地配信)	受講者	サテライト・プラザ 525 人 珠洲サテライト 51 人 小松サテライト 122 人

・担当教員所属別実施内訳

	人間社会研究域	理工研究域	医薬保健研究域	その他部局等
H25	6 講座	2 講座	4 講座	7 講座
H26	10 講座	2 講座	4 講座	9 講座
H27	8 講座	5 講座	4 講座	13 講座

・評価

公開講座は、一般市民又は職業人などに対し、本学が有する専門的、総合的な教育機能を、生活上、職業上の専門的な知識・技能や一般教養等を身につけていただく機会として提供するものであるが、実施回数等に一定の限界があり、学びの系統性や継続性という点で、課題がないわけではない。

平成 26 年度に、珠洲及び小松の市民を対象としたアンケート調査を実施し、平成 27 年度には自治体の要望を取り入れて企画した新しい公開講座「地域課題を可視化する」を開講し、地域課題解決に関する学びの場を提供した。

また、平成 26 年度からは、COC 事業の一環で遠隔地教育システムを利用し、サテライト・プラザで開講する公開講座を珠洲サテライト及び小松サテライトへ配信し、新たな「学びの場」の提供に努めている。

受講料については、大学法人化に伴い、平成 16 年度から 1 時間あたり 300 円（高校生以下 200 円）で実施してきたが、消費税の値上げや物価の上昇等により、講座に係る支出に対する収入の割合が年々減少してきたため、収支の改善を図ることを目的として、平成 27 年度から受講料を 1 時間あたり 500 円（高校生以下は据え置きで 200 円）とした。その結果、今まで 50%を切っていた収支比率がほぼ 70%となり、収支の改善に向けて第一歩を踏み出したといえる。受講料を値上げしたことにより、それに見合ったより一層の内容の充実に努めるとともに、経費においてもさらなる効率化を推進する。

なお、受講料の支払方法については平成 26 年度から、従来の銀行振込を、より便利なコンビニエンスストアでの振込に変更し、社会人受講者層の利便性を高めた。

さらに公開講座の広報に関しては、平成 26 年度にホームページをリニューアルし、公開講座に限らずミニ講演やセンターの実施する生涯学習関連イベントについてもトータルの情報発信ができるよう改善を図った。平成 26 年度及び平成 27 年度には、金沢市に加えてサテライト会場を設置している珠洲市及び小松市へもチラシの新聞折込により周知を図ったが、サテライト会場でのモニター画面による受講についてはまだまだ認知度が低い。一方で受講者満足度が高いことから、継続的な広報活動による受講者拡大に努めてまいりたい。



【公開講座の様子】



【配信会場での受講の様子】

B) ミニ講演

・趣旨

本学サテライト・プラザにおいて、本学教員が概ね月に1回、タイムリーなテーマを設定し、講義等を行い、地域の方々の高度化・多様化する学習ニーズに応える機会として実施する。

・実施状況

平成 25 年度	7 講座	受講者	315 人
平成 26 年度	9 講座	(うち, 5 講座を遠隔地配信)	
		受講者	サテライト・プラザ 339 人
		珠洲サテライト	48 人
		小松サテライト	24 人
平成 27 年度	12 講座	(うち, 6 講座を遠隔地配信)	
		受講者	サテライト・プラザ 572 人
		珠洲サテライト	27 人
		小松サテライト	36 人

・担当教員所属別実施内訳

	人間社会研究域	理工研究域	医薬保健研究域	その他部局等
H25	2 講座	3 講座	1 講座	1 講座
H26	3 講座	3 講座	1 講座	2 講座
H27	6 講座	3 講座	1 講座	2 講座

・評価

本学の市街地における事業展開の拠点であるサテライト・プラザでのミニ講演は、2000(平成12)年9月に第1回目を開催してから169講座を実施した。

本学教員の先進的、先導的な研究成果を市民に明らかにする機会を提供するとともに、地域住民の学習ニーズに応えることのできるタイムリーなテーマを設定するなど公開講座とは異なったスタイルで学習機会を提供することができた。

公開講座と同様に遠隔地教育システムを利用し、珠洲サテライト及び小松サテライトへ配信している。また、平成27年度の新たな取り組みとして、珠洲サテライトを会場として、小松サテライト及びサテライト・プラザへ配信するなど、多様化する学習ニーズに応えている。

今後とも学内の広範な教職員の理解を得るよう努めながら推進していきたい。



【ホットな話題を提供】



【夏休み子ども向け講座】

C) 金沢大学 市町共催講座

・趣旨

県又は市町若しくは個々の公民館等で企画する学級や講座の講師として金沢大学等の教員等を派遣する事業で、県及び市町の出捐（補助金又は負担金）を原資として、県及び市町並びに社会教育関係団体等で構成する金沢大学社会教育研究振興会が実施する。

・実施状況

平成 25 年度 12 市町 26 講座 1,734 人受講
 平成 26 年度 13 市町 25 講座 1,532 人受講
 平成 27 年度 9 市町 17 講座 1,248 人受講

・実施内訳

	人間社会研究域	理工研究域	医薬保健研究域	その他部局等	名誉教授	学外者
H25	11 講座	—	3 講座	7 講座	4 講座	1 講座
H26	11 講座	1 講座	6 講座	3 講座	3 講座	1 講座
H27	3 講座	1 講座	5 講座	8 講座	—	—

・評価

市町共催講座は、市町の担当者が本学 研究者情報データベース等を利用しながら企画した講座について、テーマ、担当講師、日程等を協議しながら実施にいたるもので、大学と市町の教育委員会とが連携協力して行っている事業である。

現在、本県には 19 市町あるが、全自治体での実施に向け努めるとともに、市町とのやりとりを通じながら、当該自治体の社会教育・生涯学習の振興に資する支援を継続し、地域住民への学びの機会の場を提供したいと考える。



【金沢大学 市町共催講座の様子】

D)公開「e」講座

・趣旨

一般市民の生涯にわたる学習活動を応援することを目的として、COC事業の補助金を活用して、金沢大学の学習講座の一部をウェブサイトにて無償で公開する。

・実施状況

平成26年度よりコンテンツの制作を始め、平成28年3月現在で26講座を公開した。

<公開「e」講座 リスト（1本15分～30分）H28.3現在>

	講師名	所属・職名	タイトル
1	浅野 秀重	地域連携推進センター 教授	生涯学習と開かれた人間関係づくり
			生涯学習と地域づくり
2	松下 重雄	地域連携推進センター 准教授（※撮影当時）	地域協働とまちづくり【前半】
			地域協働とまちづくり【後半】
3	松下 良	医薬保健研究域 薬学系 教授	①薬ののみ方と薬剤師の関わり
			②くすりの服用に関する十カ条（1，2）
			③くすりの服用に関する十カ条（3）
			④くすりの服用に関する十カ条（4，5）
			⑤くすりの服用に関する十カ条（6，7）
			⑥くすりの服用に関する十カ条（8，9，10）
4	横山 壽一	人間社会研究域 経済学経営学系 教授	年金と老後資金
			医療保険と医療費
			転機に立つ介護保険
5	西村 聡	人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授	東京と金沢の関係から見る能楽の衰退と復興
			金沢・卯辰山周辺の能楽伝承地
			宝生紫雪・九郎父子と加賀宝生の関係
			泉鏡花『照葉狂言』と能楽及び周辺の芸能
			宝生九郎時代の終焉と加賀宝生の新生
6	加藤 和夫	人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授	金沢方言の成立と今（1） ー加賀（金沢）方言の世代差
			金沢方言の成立と今（2） ー加賀（金沢）方言の世代差
			金沢方言の成立と今（3） ー加賀（金沢）方言の世代差
			金沢方言の成立と今（4） ー加賀（金沢）方言の世代差
7	牧 輝弥	理工研究域 物質化学系 准教授	空飛ぶ微生物の知られざる正体～第1話
			空飛ぶ微生物の知られざる正体～第2話
			空飛ぶ微生物の知られざる正体～第3話
8	清水 邦彦	人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授	金沢市の地藏尊

・評価

公開講座に参加する機会がなかった方々に、各々の学習スタイルに合った場所・時間に視聴できる「学びの場」を提供することで、一般市民の学習活動の拡がりや深まりに大いに役立っている。今後も、年間数本のコンテンツを製作・公開し、引き続き学びの場の拡充を図る。

さらに今後は広報にも力を入れ、平成28年4月には、「金沢大学公開「e」講座」として、大学のトップページ「社会貢献」からリンクするとともに、平成28年度前期分金沢大学公開講座のチラシ（金沢市内へ新聞折込）の裏面を公開「e」講座の紹介記事とし、一層のPRを図る。



【金沢大学公開「e」講座のチラシ】

E) 市民のためのセミナー

・趣旨

学内の教職員で CDA(キャリアカウンセラー)の有資格者により社会的ニーズの高いキャリアセミナーを実施することによって社会貢献の一環を担う。キャリア(生き方)を見直したい女性を対象とし、自己を振り返り、自分の価値観等についてグループワークを通して考えることにより、これからの自分のキャリアを考える場を提供するプログラムを実施する。

・実施状況

場所：金沢大学サテライト・プラザ

対象：いずれはたらきたい主婦、はたらき方を見直したい女性

第1回	平成25年2月16日(土)	13:00~16:00	参加人数 14人
第2回	平成26年2月22日(土)	13:00~16:00	参加人数 14人
第3回	平成27年2月15日(日)	13:00~16:00	参加人数 12人

・評価

このセミナーの実施にあたり、外部講師ではなく、学内の有資格者が協力し、企画・運営を実施した。また、県の子育て事業財団を活用することにより保育室を開設し、小さな子どもを持つ母親が参加しやすい環境を整えた。

参加者からは「漠然としていた悩みが、少しすっきり整理できた」「自分と向き合うことができ、また他の意見を聞くことで、共感できたり、参考になったり刺激を受けて、自分も前向きになれました」等の意見が多く寄せられ、家庭を持つ女性が家庭から離れて自分自身のことについて考え、仲間と共有する時間をもつことは有意義であり、満足度の高いセミナーとなった。



【キャリアセミナーの様子】

2-2 指導者養成事業

A) 金沢大学社会教育主事講習

・趣旨

社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 9 条の 5 の規定及び社会教育主事講習等規程（昭和 26 年文部省令第 12 号）に基づき、文部科学大臣の委託を受けて、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与えることを主な職務とする社会教育主事の資格を付与することを目的として実施する。

・実施状況

平成 25 年度	7 月 22 日（月） ～8 月 23 日（金）	受講者 42 人 修了者 36 人	学内講師 10 人 学外講師 30 人
平成 26 年度	7 月 22 日（火） ～8 月 22 日（金）	受講者 36 人 修了者 28 人	学内講師 10 人 学外講師 30 人
平成 27 年度	7 月 21 日（火） ～8 月 21 日（金）	受講者 45 人 修了者 35 人	学内講師 11 人 学外講師 36 人

昭和 52 年～平成 27 年度（39 回） 社会教育主事有資格者 総計 3,198 人

・評価

近年、社会教育主事に期待される役割として、学びの機会の提供のみならず学びを通じた地域づくり、住民間の絆づくりへとその役割が広がりつつある。平成 27 年 3 月に取りまとめられた教育再生実行会議の第 6 次提言でも「教育の力で地方創生を」が掲げられているように、社会教育・生涯学習への期待が高まっているのは事実である。当講習においても、平成 25 年度、26 年度は、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」、平成 27 年度は「住民間の絆づくりと活力ある地域創生」を全体テーマとして設定し、講習の意図や講師間における意識統一を図り実施した。

毎年、受講者に実施しているアンケートでは、社会教育主事や社会教育職員に期待される「基礎力」として、「地域課題を発見・分析する力」「学びの場や機会を企画する力」「地域住民とコミュニケーションできる力」が多く挙げられており、それらの能力の育成を意図した新設科目、「ファシリテーターの役割」、「地域診断法入門」、「人間関係づくり（コミュニケーション力・傾聴力）」を設けるなど、講習内容の強化を図っている。

また、平成 25 年度まで受講者は運営経費として 1 科目あたり 2,500 円を負担することとしていたが、平成 26 年度からはこれを廃止し研究集録の印刷代実費として一律 2,000 円の徴収に改め、負担軽減を図った。

平成 27 年度には、文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）の認定を受け、平成 28 年度からは地域の生涯学習コーディネーターとしての履修証明プログラムとしてもスタートする。学びを通じた地域づくりの人材育成を図るとともに、今後学校と地域の連携の必要性が高まっていることから、小中学校教員への受講奨励にも尽力していきたい。



【社会教育主事講習の様子】



【「職業実践力育成プログラム」（BP）】

B) 社会教育主事等フォローアップ研修

・趣旨

新しい時代に対応した生涯学習・社会教育の実現を目指していくためには、それぞれの地域で実際に事業活動の推進に中核的な役割を果たす社会教育主事等がその力を十分に発揮することが重要である。

そのためには、必要な専門的知識や技術に関する研修を行い、市町の指導的立場にある社会教育専門職員としての実践的な力量を高めることを目的に実施する。

・実施状況

<平成 25 年度>

日時 平成 26 年 1 月 29 日（水）～30 日（木）

会場 A P A ホテル金沢駅前 会議室

内容 第 1 日目は、県生涯学習課長と地域連携推進センター教員による「今、社会教育主事に必要な役割」をテーマにした講義と質疑。翌日は、文部科学省初等中等教育局参事官付学校運営支援企画官の出口寿久氏による「地域とともにある学校づくり」をテーマとした学校運営協議会、いわゆるコミュニティスクールに関する講義と質疑を行った。

参加者数 20 人

<平成 26 年度>

日時 平成 27 年 2 月 20 日（金）～21 日（土）

会場 石川県行政庁舎 1104 会議室及び石川県立白山青年の家

内容 基調講演者に文部科学省生涯学習政策局社会教育課企画官の水畑順作氏を迎え「社会教育を元気づける！ー社会教育職員の役割についてー」をテーマにした講義及び質疑並びに北陸 3 県教育委員会の担当者による次年度事業の説明及び質疑を行った。

白山青年の家では、社会教育主事講習修了者で社会教育・生涯学習行政に従事する 2 人、学校長 1 人、学校支援コーディネーター 1 人、地域の児童・生活委員 1 人の 5 人の方を招きリレートーク。翌日は、事業の企画とチラシづくりに係る講義と実習を行った。

参加者数 38 人

<平成 27 年度>

日時 平成 28 年 2 月 19 日（金）～20 日（土）

会場 石川県行政庁舎 802 会議室及び白山青年の家

内容 金沢大学大学教育開発・支援センター特任助教の河内真美氏による「社会教育におけるアクティブラーニング」をテーマに、現在学校等での取組が奨励されているアクティブラーニングの手法や考えを、社会教育の場面ではいかに活かすことができるか、という観点での講義と実習。修了後、北陸 3 県教育委員会の担当者による次年度事業の説明及び質疑を行った。

白山青年の家では、参加者が、主として教育委員会等の行政の関係者と公民館等の社会教育施設職員との 2 つのグループに分かれてワークショップ。翌日は、人が集まる文書テクニク、魅力的なチラシづくりに関する講義と実習を行った。

参加者 46 人

・評価

社会教育職員養成の場として例年夏期に社会教育主事講習を開催しているが、受講後のフォローアップの機会としてこの研修を企画している。おおむね受講後5年以内の方に当センターから開催案内を送付するとともに、石川県教育委員会を通じて県内の各市・町教育委員会の担当課あてに開催の案内を行っている。北陸3県教育委員会担当課からの生涯学習の動向や次年度事業の説明は、担当者にとっても新たな情報の提供の機会となっている。

この研修は、北陸3県の社会教育関係者が集うことのできる唯一の機会であり、参加者のネットワーク形成に資するものと思われるが、どうしても石川県内の関係者に偏りがちの感は否めない。研修内容の充実はもとより、開催時期の検討や日程の早い段階からの決定など、広報や周知方法の改善などに努めたいと考える。

C) 学校図書館司書教諭講習

・趣旨

学校図書館法（昭和 28 年法律第 185 号）第 5 条第 3 項の規定に基づき、学校図書館の専門的職務に携わる司書教諭を養成するため、文部科学大臣の委託を受けて実施する講習で、学校図書館司書教諭講習規程（昭和 29 年文部省令第 21 号）に従って行われる。

・実施状況

平成 25 年度 8 月 6 日(火)～8 月 31 日(土) 受講者 42 人（うち修了者 15 人）
実施科目：3 科目
（学習指導と学校図書館、読書と豊かな人間性、情報メディアの活用）

平成 26 年度 8 月 5 日(火)～8 月 28 日(木) 受講者 34 人（うち修了者 6 人）
実施科目：2 科目
（学校経営と学校図書館、学校図書館メディアの構成）

平成 27 年度 8 月 4 日(火)～8 月 28 日(金) 受講者 26 人（うち修了者 6 人）
実施科目：2 科目
（読書と豊かな人間性、情報メディアの活用）

・評価

資格取得に必要な 5 科目 10 単位を修得する講習であり、学校における子どもの「読書離れ」解消への取り組みの中核的な役割を担う力を育てるとともに、教員をめざす学生の資格取得の機会となっている。

なお、平成 22 年度からは、本学に 2 年以上在学する学生が当講習を受講できるよう共通教育の集中講義というスタイルでも実施している。

しかし、講師となる人材が石川県近辺におらず、また、全国的に講習の実施時期が現職の教員が受講しやすい夏期に集中するため、講師の確保に苦慮しているのが現状である。



【学校図書館司書教諭講習の様子】

2-3 自治体等との連携による事業

A) 北陸4大学連携まちなかセミナー(石川会場)

・趣旨

北陸3県の4国立大学法人が連携して、それぞれ設定したテーマに基づいて、各大学の教員が講師又はコーディネーターとなって講義、討議等を行い、地域の方に学びの機会を提供する。

・実施状況(石川会場)

平成25年度 11月16日(土) テーマ：地域の魅力とまちづくり 47人

コーディネーター：横山壽一（地域連携推進センター長）

講師：金岡省吾（富山大学 教授）

田中志敬（福井大学 助教）

白肌邦生（北陸先端科学技術大学院大学 准教授）

平成26年度 11月29日(土) テーマ：地域づくりの担い手育て 21人

コーディネーター：横山壽一（地域連携推進センター長）

講師：大西宏治（富山大学 准教授）

浅野秀重（金沢大学 教授）

明石行生（福井大学 教授）

平成27年度 11月16日(土) テーマ：大学における工学と医学とのコラボレーション 30人

コーディネーター：横山壽一（地域連携推進センター長）

講師：長宗高樹（福井大学 准教授）

田中志信（金沢大学 教授）

中村真人（富山大学 教授）

他会場（金沢大学関係講師）

H25	<p>富山会場テーマ：脳・精神の病気って、どんなもの？どうやって治すの？予防できるの？ 講師：東田 陽博（子どものこころの発達研究センター 特任教授）</p> <p>石川会場（北陸先端大担当）テーマ：健康を支える環境と地域づくり 講師：中村 裕之（医薬保健研究域 教授）</p> <p>福井会場テーマ：大人から子供まで楽しめる音楽 講師：浅井 暁子（人間社会研究域 准教授）</p>
H26	<p>富山会場テーマ：薬物依存・薬物乱用の怖さ 講師：戸田 重誠（附属病院 講師）</p> <p>石川会場（北陸先端大担当）テーマ：健康を支える生活と豊かな地域づくり 講師：許 鳳浩（医薬保健学総合研究科 客員准教授）</p> <p>福井会場テーマ：伝統医学を支える身近な和漢生薬 講師：佐々木 陽平（医薬保健研究域 教授）</p>
H27	<p>富山会場テーマ：自分の『つい』に気が付こう—身近にできる肥満・メタボ対策 講師：徳丸 季聡（附属病院 栄養管理室長）</p> <p>福井会場テーマ：LED で変わった世の中 講師：丸山 武男（理工研究域 准教授） 瀧 健太郎（理工研究域 准教授）</p>

・評価

平成15年度から実施しているまちなかセミナーは、平成27年度の実施で第13回目となった。北陸の地から、北陸地区の国立大学の専門的な「知」を発信するという試みは、大学間の連携協力を促進するとともに、高度化・多様化する地域の方々の学習ニーズに応える機会となっている。設定されたテーマによっては、参加者数に違いはあるが、テーマや実施形態を検討しながらさらなる内容の充実を図りたい。

B) 市町生涯学習・社会教育担当者等研修 [振興会と県等との連携]

・趣旨

県内の市・町及び社会教育施設等の生涯学習・社会教育担当職員等を対象に地域と行政のかかわりの現状と課題を見つめ、これからの生涯学習による地域社会づくりの推進に必要な職員としての資質の向上を図る。

・実施状況

<平成 25 年度>

日時 平成 25 年 7 月 8 日 (月) 10:00-16:30

会場 石川県行政庁舎 1102 会議室, 1114 会議室

内容 午前は、「大人の学びの成果とは何か」と題し、東京都杉並区教育委員会事務局教育連携担当係長で社会教育主事の中曾根聡氏による基調講演。午後は、多くの当事者による[熟慮]と[討議]を重ねながら政策を形成していく手法としての「熟議」によって理解や解決策についての共有を図った。

参加者数 86 人

<平成 26 年度>

日時 平成 26 年 7 月 3 日 (木) 10:00-16:30

会場 石川県行政庁舎 1102 会議室

内容 午前は、「公民館等を中心とした地域づくりと今後の公民館の在り方」と題し、文部科学省生涯学習政策局社会教育課公民館振興係長の小屋松英氏による基調講演、次いで地域連携推進センター教員による「地域学習によるお宝発見」をテーマの小講義。午後は、「地域学習によるお宝発見」をテーマとした熟議を行い、グループごとに「熟議」の状況を報告した。そして、公民館・地域の活性化が元気な地域をつくることとなり、ひいては、元気な日本の再生に寄与する可能性があることを参加者で確認し合った。

参加者数 75 人

<平成 27 年度>

日時 平成 27 年 6 月 11 日 (木) 10:00-16:00

会場 石川県行政庁舎 1105 会議室

内容 地方創生の実現に必要な地域の自主・自立的な運営に向け、社会教育が学びを通じて貢献していくことの重要性に鑑み、「生涯学習・社会教育活動と地方創生」をテーマに、午前は、文部省生涯学習政策局社会教育課長補佐の佐藤秀雄氏に基調講演をお願いするとともに、地域連携推進センター教員が「市民の学びとまちづくり」と題して小講義を行った。午後は、グループに分かれ、地域の現状、課題、解決のための取組、ネットワークの可能性ある団体・機関、期待される効果などについて協議し、それぞれ報告し合い、学びの成果の共有を図った。

参加者数 62 人

・評価

県内の社会教育・生涯学習事業に係わる職員対象の事業で、講演、研究協議「熟議」という形式で実施してきている。講演で社会教育・生涯学習に関する国の施策を理解するとともに、全国的な状況を把握し、研究協議ではそれぞれの取り組みについて情報交換や事業の企画を協働で行ったりし、全体としては、地域における「学びのコーディネーター」としての職員の資質向上及び「絆づくりと活力あるコミュニティの形成・地方創生」に向け、社会教育事業や生涯学習の振興事業の在り方を考える契機になっているものと思われる。

ただ、公民館職員の学びの要求に応えるテーマ、講演内容、講師選定などを含めて、研修の方法や研修の在り方については今後とも検討を加える必要があると思われる。

C)生涯学習振興に係るフォーラム等 [振興会と県等との連携]

・趣旨

県内の社会教育・学校教育等の行政、教員、民間、NPO等の関係者が集い、一定のテーマに基づいて、実践を交流し、課題と展望を共有し併せて取り組みの意義を確認し合う場として実施し、もって「石川県教育振興基本計画」がめざす生涯学習社会の実現に向けた石川らしいふるさとづくり、人づくりのさらなる推進を図る機会とする。

・実施状況

<平成 25 年度>

日時 平成 26 年 1 月 29 日 (火) 13:15~16:30

会場 石川県行政庁舎 1105 会議室

内容 県内の社会教育・学校教育等の行政・教員・民間・NPO 等の関係者が集い、「ネット社会に潜む危険性」をテーマに、金沢星稜大学人間科学部教授の村井万寿夫氏の講演の後、村井氏のコーディネートにより県教育委員会学校指導課課長補佐、県高等学校 PTA 連合会会長、七尾市社会教育委員の会議議長をパネリストとしてパネルディスカッション、会場との質疑応答がなされた。

参加者数 159 人

<平成 26 年度>

日時 平成 27 年 1 月 29 日 (木) 13:15~16:30

会場 石川県行政庁舎 1105 会議室

内容 県内の社会教育・学校教育等の行政・教員・民間・NPO 等の関係者が集い、「地域の良さを再発見するキャリア教育」をテーマに、福井大学アドミッションセンターの大久保 貢氏の講演の後、同氏のコーディネートにより、県ジョブカフェのキャリア教育支援グループリーダー、小松市社会教育委員、県教育委員会学校指導課主任指導主事をパネリストに、地域の教育力をキャリア教育にどう活かせるか、という観点に立って議論がなされた。

参加者数 112 人

<平成 27 年度>

日時 平成 28 年 1 月 28 日 (木) 13:15~16:30

会場 石川県行政庁舎 1105 会議室

内容 県内の社会教育・学校教育等の行政・教員・民間・NPO 等の関係者が集い、宇都宮大学基盤教育センター特任准教授の蜂屋大八氏の「風土に学び、地域を創る ふるさと学習」をテーマとした講演の後、同氏のコーディネートで、岐阜県立益田清風高等学校教員、加賀市大聖寺公民館長、金沢大学地域創造学類所属で学生サークルの 2 人の学生によるパネルディスカッション。ふるさと学習の具体的な取組やその成果等が示され、地域を学ぶ意義が参加者で確認し合えたと思われる。

・評価

行政や公民館等の職員及び県立学校の教員が主な参加者であるため、近年はボランティア活動や学校と地域社会との連携に関するテーマを設定している。このテーマに沿った事例を地域の側、学校の側から発表するという形式であるが、小・中学校と比べて地域とのつながりが必ずしも深くない県立学校にとっても、ネット社会、キャリア教育、ふるさと学習等のテーマ設定は、時宜にかなったものという思いがある。今後とも、意義あるものとなるフォーラムの在り方を検討していくとともに、地域と学校の連携が生み出す教育力は大きい、参加者の思いや考えがもっと出る工夫があると良い、などという参加者アンケートの声にも応えられるような企画となるよう努めたい。

D)教育事務所管内別 生涯学習研究会 [振興会と県等との連携]

・趣旨

県内の4教育事務所管内の市・町の社会教育・生涯学習担当者が、担当する事業や取組上の課題を協議し合うとともに、ネットワーク化を図る契機として実施する。

・実施状況

<平成25年度>

ア 小松教育事務所管内

日時 平成25年11月14日(木) 13:30~15:30

内容 魅力ある講座・イベントの立案・運営方法

講師 寺尾 健夫(福井大学教育地域科学部 教授)

会場 能美市寺井地区公民館 27人参加

イ 金沢教育事務所管内

日時 平成25年11月7日(木) 13:30~15:30

内容 定年を迎えた方の生きがいと公民館活動の参加

講師 藤田 公仁子(富山大学地域連携推進機構 教授)

会場 石川県行政庁舎 1101会議室 22人参加

ウ 中能登教育事務所管内

日時 平成25年11月27日(水) 13:00~16:00

内容 高齢社会における公民館等の役割を考える

講師 神部 純一(滋賀大学社会連携研究センター 教授)

会場 ラピア鹿島ミュージズホール 38人参加

エ 奥能登教育事務所管内

日時 平成26年2月15日(土) 13:30~15:30

内容 能登の里山里海を活用した公民館活動について

講師 宇都宮 大輔(金沢大学里山里海プロジェクト常駐スタッフ)

大野 長一郎(大野製炭工場代表)

会場 珠洲市産業センターほか 46人参加

<平成26年度>

ア 小松教育事務所管内

日時 平成26年11月20日(木) 13:30~15:30

内容 子育て支援と公民館の取組

講師 水上 義行(富山国際大学子ども育成学部 教授)

会場 小松第一地区コミュニティセンター 19人参加

イ 金沢教育事務所管内

日時 平成26年11月7日(金) 13:30~15:30

内容 人間関係が良好で犯罪のない地域づくり

講師 藤田 公仁子(富山大学地域連携推進機構 教授)

会場 津幡町文化会館シグナス 29人参加

ウ 中能登教育事務所管内

日時 平成 26 年 11 月 13 日(木) 13:30~15:30
内容 魅力ある講座・イベントの立案・運営方法
講師 寺尾 健夫(福井大学教育地域科学部 教授)
会場 志賀町文化ホール 33 人参加

エ 奥能登教育事務所管内

日時 平成 27 年 2 月 28 日(土) 13:30~16:00
内容 能登の里山里海を活かす公民館の体験事業
講師 宇野 文夫(金沢大学地域連携推進センター 特任教授)
会場 コンセールのと 多目的ホール 28 人参加

<平成 27 年度>

ア 小松教育事務所管内

日時 平成 27 年 11 月 19 日(木) 13:30~15:30
内容 「魅力的なチラシはテンプレートを変えろ」
講師 迎 崇(IT コーディネータ)
会場 加賀市市民会館 23 人参加

イ 金沢教育事務所管内

日時 平成 27 年 11 月 13 日(金) 13:30~15:30
内容 「地域づくりの拠点としての公民館の役割」
講師 藤田 公仁子(富山大学地域連携推進機構 教授)
会場 金沢市教育プラザ富樫 40 人参加

ウ 中能登教育事務所管内

日時 平成 27 年 11 月 12 日(木) 13:30~15:30
内容 「これからの地域づくりと公民館」
講師 藤田 公仁子(富山大学地域連携推進機構 教授)
会場 サンビーム日和ヶ丘 45 人参加

エ 奥能登教育事務所管内

日時 平成 28 年 2 月 24 日(水) 14:00~15:30
内容 「今後の公民館活動のあり方」
講師 浅野 秀重(金沢大学地域連携推進センター 教授)
会場 石川県立生涯学習センター能登分室 53 人参加

・評価

団塊の世代と公民館活動，社会教育実践の共有・継承，ファシリテーターとしての基礎的スキル，職員に期待されるコミュニケーション力，実践的なコーディネート力の形成，広報媒体としてのチラシづくりなどをテーマに設定しそれぞれの管内の関係者が一堂に会して研修を実施している。

それぞれの自治体や公民館で行っている事業について情報交換するとともに，横の連携を図る上で効果的な事業になっていると思われる。

E) 中央区との連携による講座

・趣旨

平成 21 年 8 月に日本橋室町に金沢大学東京事務所を開設したことを機に、中央区の区民カレッジの連携講座として実施している。

・実施状況

<平成 25 年度>

考古学の世界～世界の考古学 part 2～

開催日	テーマ	講師
10月12日(土)	インド・アジャンター石窟の建築と壮厳	人間社会研究域人間科学系 准教授 矢口 直道
10月19日(土)	黄河と中国の古代都市	人間社会研究域附属国際文化資源学 研究センター 特任准教授 秦 小麗
10月26日(土)	海のシルクロードと東南アジアの古代国家	人間社会研究域附属国際文化資源学 研究センター 特任教授 山形 真理子
11月30日(土)	中国における王墓の始まり	理事(教育担当), 副学長 中村 慎一
12月7日(土)	古くて新しい縄文芸術	人間社会研究域附属国際文化資源学 研究センター 特任准教授 吉田 泰幸

<平成 26 年度> 「文化資源の保全と活用～世界の文化財～」

開催日	テーマ	講師
9月20日(土)	トルコ絨毯にみる「伝統」の今	人間社会研究域附属国際文化資源学 研究センター 特任助教 田村 うらら
10月11日(土)	インドネシア・バリ人の人間観・世界観	人間社会研究域人間科学系 教授 鏡味 治也
10月18日(土)	タイ・山地民ラフ族の食文化	人間社会研究域人間科学系 教授 西本 陽一
11月8日(土)	マンダラと密教の仏たち	人間社会研究域人間科学系 教授 森 雅秀
11月22日(土)	南インドで制作される寺院掛布に見られる「宗教的」意義	人間社会研究域附属国際文化資源学 研究センター 特任助教 松村 恵理

<平成 27 年度>

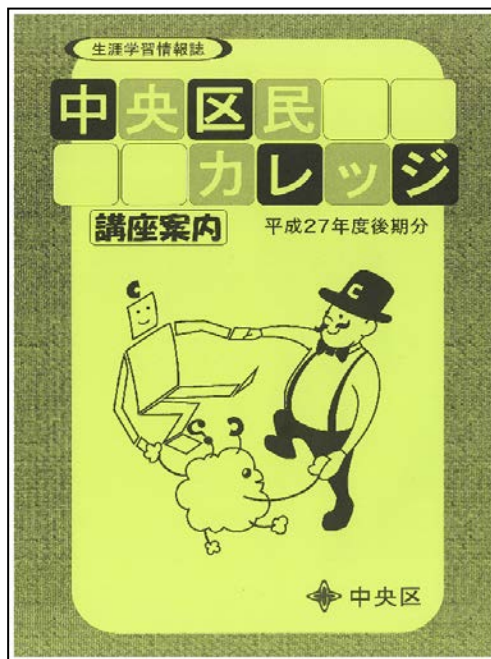
「金沢を知る～受け継がれる伝統と新しい風～」

開催日	テーマ	講師
11月14日(土)	和菓子で歩く／読む金沢	人間社会研究域歴史言語文化学系 教授 杉山 欣也
11月28日(土)	金沢の文化的景観を生かしたまちづくり	理工研究域環境デザイン学系 講師 小林 史彦
12月5日(土)	まいどさんが語る金沢の魅力	金沢観光ボランティアガイドの会「まいどさん」会長 喜多 益雄
12月12日(土)	留学生が学ぶ金沢の豊かな自然と文化	国際機構留学生センター 特任助教 MAMMADOVA AIDA (ママードウア アイダ)

評価

募集 60 名に対して、受講申込者は平成 25 年度 61 名、平成 26 年度 59 名、平成 27 年度 60 名であった。いずれの講座も受講者に対して行ったアンケートでは満足度が高く、リピーターが多くなっている傾向がある。

講座の内容については年度ごとにテーマを設定し、平成 27 年度には金沢の伝統や文化等をテーマとした講座を開講した。北陸新幹線開業により首都圏における石川県への注目度が高まっていることから受講者の評価も高く、中央区民のニーズに合った講座であったと言える。来年度以降も石川県に関する講座を開講することで地域の魅力を首都圏に伝える機会とすることが期待できる。



【中央区民カレッジのパンフレット（平成 27 年度後期分）】

F) 北國新聞社との連携による公開講座

・趣旨

平成 18 年 3 月 23 日、国立大学法人金沢大学と株式会社北國新聞社との間で締結された「金沢大学と北國新聞社による『金沢学』推進事業実施にかかる覚書」に基づいて、市民対象の公開講座「地域学としての金沢学」を実施している。

・実施状況

<平成 25 年度>

金沢大学と北國新聞社の共同事業 **市民公開講座「金沢学」** 【平成25年度】11月10日(日)に実施する金沢検定試験を受験します。

年間テーマ「日本の近代化を支えた金沢人」(会場)北國新聞20階ホールなど

3月 15日(土) 13時半~	2月 22日(土) 13時半~	1月 18日(土) 14時~	12月 18日(土) 14時~	11月 10日(日)	10月 00日(土) 13時半~	9月 28日(土) 13時半~	7月 27日(土) 13時半~	6月 8日(土) 13時半~	5月 11日(土) 13時半~	4月 13日(土) 13時半~
からくりから機械へ 津田吉之助、末次郎、駒次郎 講師 本康、宏史氏(石川県立近代博物館学芸員)	やおくだがま、明治の気骨 井口在屋、島山一清 講師 森井、道男氏(日本ペンクラブ会員)	海軍を支えた3人の造船大鑑 土師外次郎、桜井省三、辰巳一 講師 増山、仁氏(金沢市立歴史民俗資料館)	尾小屋鉱山と横山隆興 土師外次郎、横山方子氏(筆名)	第8回 金沢検定受験 社家庭園見学と座学(会場)社家庭園茶室	金沢における女子教育の夜明け 加藤せむ 講師 加藤、晃氏(金沢大学名誉教授)	金沢に電灯がともった日 長谷川準也、森下八左衛門 講師 松田、章氏(金沢市立歴史民俗資料館)	文人 赤羽萬次郎 上田正行氏(歴史民俗資料館)、小倉正人氏(金沢市立歴史民俗資料館)	関沢明清、若き加賀藩士、夜明けの海 吉道、悦子氏(筆名)	マッチ製造で外貨獲得を 担った清水誠 徳田、寿秋氏(金沢市立歴史民俗資料館)	特別講演 シンポジウム 「建築文化からみた金沢の近代化」 講師 五十嵐、太郎氏(東大教授) 五十嵐、太郎氏、水野、一郎氏(東工大教授)、川上光彦氏(金沢大学名誉教授) ▲上野、正人氏(金沢市立歴史民俗資料館)

<平成 26 年度>

金沢大学と北國新聞社の共同事業 **市民公開講座「金沢学」** 【平成26年度】11月16日(日)に実施する金沢検定試験を受験します。

(会場)北國新聞20階ホールなど (時間)13時半から

14日(土) 3月	14日(土) 2月	17日(土) 1月	13日(土) 12月	16日(土) 11月	4日(土) 10月	6日(土) 9月	26日(土) 7月	21日(土) 6月	31日(土) 5月	19日(土) 4月
加賀藩奇談 講師 黒田、智氏(金沢市立歴史民俗資料館)	城下町金沢の開帳行事 「神社祭礼にみる庶民の娯楽」 講師 宇佐美、孝氏(金沢市立山田歴史民俗資料館)	「恋する文学」と「おいしい文学」の間 講師 寺田、達也氏(金沢大学名誉教授)	加賀藩の能楽と宝生流の発展 講師 藤島、秀隆氏(金沢市立歴史民俗資料館)	第10回 金沢検定受験 講師 木越、隆三氏(金沢市立歴史民俗資料館)	よみがえる玉泉院丸 講師 木越、隆三氏(金沢市立歴史民俗資料館)	三島由紀夫「美しい星」の金沢 講師 杉山、欣也氏(金沢市立歴史民俗資料館)	前田家の女たち 講師 横山、方子氏(筆名)	前田家の奥方御殿 成巽閣 講師 吉竹、泰雄氏(筆名)	金沢ことばの語源を探る 講師 加藤、和夫氏(金沢市立歴史民俗資料館)	武家料理と加賀料理 講師 船坂、豊昭氏(金沢市立歴史民俗資料館) ▲五十嵐、太郎氏(東大教授) ▲上野、正人氏(金沢市立歴史民俗資料館) ▲アチー、秋本、和美氏(ライオンエッセイ)

<平成 27 年度>

金沢大学と北國新聞社の共同事業 **「金沢学」** 【平成27年度】
市民公開講座 受講生募集

【会場】北國新聞20階ホールなど 【時間】13時30分～15時00分(予定)

<p>12月 3日(土)</p> <p>金沢市の地蔵信仰</p> <p>講師 清水 邦彦氏(金沢大学)</p>	<p>1月 13日(土)</p> <p>金沢が戦後の文学者にもたらしたもの</p> <p>講師 水刺 幸次氏(金沢大学)</p>	<p>1月 30日(土)</p> <p>加賀藩を支えた十村たち 村々の支配と運営</p> <p>講師 上田 邦生氏(金沢大学)</p>	<p>12月 5日(土)</p> <p>金沢箔つなごがスゴイの？</p> <p>会場 金沢市工業部工業館(現建設会館) 講師 山崎 達文氏(金沢大学)</p>	<p>11月 29日(土)</p> <p>第11回 金沢検定受験</p> <p>会場 金沢市工業部工業館(現建設会館) 講師 鈴木 暁世氏(金沢大学)</p>	<p>10月 31日(土)</p> <p>関東大震災と金沢の三文豪</p> <p>講師 鈴木 暁世氏(金沢大学)</p>	<p>9月 12日(土)</p> <p>地酒にみる伝統と革新の技 再発見</p> <p>講師 正河 和利氏(福井県立大学)</p>	<p>7月 11日(土)</p> <p>キャリア女性の先駆者 高橋まゆの生涯</p> <p>講師 浅見 洋氏(金沢大学)</p>	<p>6月 20日(土)</p> <p>加賀藩の参勤交代</p> <p>会場 石川県立歴史博物館(現建設会館) 講師 北春千代氏(石川県立歴史博物館)</p>	<p>5月 16日(土)</p> <p>辰巳用水をたどる</p> <p>会場 北國新聞10階 香林坊プラザホール 講師 畦地 実氏(百尾工業株式会社)</p>	<p>4月 25日(土)</p> <p>私の金沢考</p> <p>基調講演・シンポジウム 講師 山出 保氏(金沢大学) / 百尾中小企業センター 司会 山出 保氏(金沢大学)</p>
--	---	--	--	--	---	--	---	--	--	--

北國新聞社提供「金沢学」資料を一部改変して掲載

・評価

金沢大学と北國新聞社とが連携して行う市民公開講座「金沢学」は、地域における学術文化の活性化及び発展に寄与することを目的としたもので、講座の企画は、北國新聞社が主体的に行っている。

大学側は、講師の人選において金沢大学教員の推薦、日程調整、開講時のあいさつ等であるが、「金沢」を広く石川県内、あるいは北陸3県に拡げるような視点での講座の企画や講師人選も今後の検討事項にあげられるかと考える。

なお、平成 27 年 8 月には北國新聞社と本学とで包括連携協力に関する協定書を締結しており、これまで以上に連携・協力して生涯学習の推進などを目指していく予定である。

G) 読売新聞社との連携による講座

・趣旨

金沢大学地域連携推進センターは、平成 24 年度より読売新聞東京本社北陸支社と連携し、公開市民講座を実施している。

・実施状況

<平成 25 年度>

「資源化される文化」

開催日時	テーマ	講師
7 月 14 日(日)	文化遺産から文化資源へ —金沢大学の取り組み—	理事(教育担当)・副学長 中村 慎一
7 月 20 日(土)	文化資源学から見た仏教美術資料 —旧満州のチベット美術資料の活用—	人間社会研究域人間科学系 教授 森 雅秀
7 月 27 日(土)	ヨルダンの文化資源学 —遺跡調査の新たな側面—	人間社会研究域歴史言語文化学系 教授 藤井 純夫
8 月 4 日(日)	文化資源と文化の研究 —インドネシア・バリ島研究の事例から—	人間社会研究域人間科学系 教授 鏡味 治也

<平成 26 年度>

「世界の遺跡を掘る」

開催日	テーマ	講師
7 月 26 日(土)	古代ペルシア帝国の都を掘る	人間社会研究域歴史言語文化学系 准教授 足立 拓朗
8 月 3 日(日)	ベトナムでチャンパ王国の都を掘る	人間社会研究域附属国際文化資源 学研究センター 特任教授 山形 真理子
8 月 9 日(土)	中央アジアの仏教遺跡を掘る	人間社会研究域歴史言語文化学系 准教授 有村 誠

<平成 27 年度>

「今を生き抜く働きかた」

開催日	テーマ	講師
8 月 23 日(日)	不安定な社会を生き抜く ～若い女性たちは今?～	人間社会研究域学校教育系 准教授 杉田 真衣
8 月 30 日(日)	ブラック企業に気をつけよう ～良質の働きかた(ディーセント・ワーク) をめざして～	人間社会研究域法学系 教授 名古 道功
9 月 13 日(日)	ワークライフバランスで幸せになる ～大切なものは何ですか?～	人間社会研究域人間科学系 教授 高橋 涼子

・評価

平成 24 年度から実施している本公開市民講座は、内容の企画・講師の人選・会場の手配については本学，新聞紙上による事前広報・テレビ広告・チラシについては読売新聞で実施している。新聞記事掲載やテレビによる広報では，大学が独自にPRした場合，総額 1000 万円以上を支払う必要があり，大きな広報効果を得たこととなる。

参加延べ人数については平成 25 年度 227 名，平成 26 年度 179 名，平成 27 年度 86 名であった。

なお，平成 27 年 9 月には読売新聞東京本社と本学とで包括連携協力に関する協定書を締結しており，これまで以上に連携・協力して人材育成や生涯学習の推進などを目指していく予定である。



【読売新聞との連携による講座の様子】